

《研究ノート》

# ゴーレム伝説関連文献

— 「プラハのゴーレム」を中心として—

春山清純

- I. プラハのゴーレム以前のゴーレム観を示す文献
- II. プラハのゴーレム像の源流
- III. ラビ・レーヴ論／伝
- IV. ゴーレム論
- V. その他のゴーレム物語
- VI. ロマン派以降のドイツ文学への余波
- VII. 翻訳以外の日本語文献
- 付録1・大阪大学ドイツ文学会研究発表会で配布したレジュメ
- 付録2・資料図表4点

## I. プラハのゴーレム以前のゴーレム観を示す文献

### 1) 旧約聖書

「ゴーレム」(Golem)の語がただ一度だけ使われている。「詩篇139.16」。  
語義は不詳で、かつては「胎児」と訳されていたが、現在では「未完成のもの」と解されている。聖書のルター訳では noch unbereitet である。

### 2) タルムード

神の人間(アダム)創造のある段階(四肢ができる直前の段階)の状態を「ゴー

---

\*2003年12月15日受理。

レム」と呼んでいる。(Sanhedrin, 38b.)

またこれとは別に、『創造の書』研究により、人間や子牛を創造した賢者がいたことが記されている。(Sanhedrin, 65b.)

### 『創造の書』

\*Sepher Ješirah. Das Buch der Schöpfung. Übersetzt von Lazarus Goldschmidt. (Reprografischer Nachdruck der 1. Auflage, Frankfurt a/M. 1894.) Darmstadt 1969. [ヘブライ語ドイツ語対訳]

\*箱崎総一『カバラ ユダヤ神秘思想の系譜』青土社 1986年

本書の第2章に『創造の書』が訳されている。但し底本が異なるので、節の配列に異同がある。

以下、原本またはコピーで所有している文献名には(\*)印を付ける。

### 3) 中世のカバラ文献

ここで初めて、タルムードの二系統の説話が結合され、『創造の書』研究の結果として、神の人間創造を真似て製作された人造人間がゴーレムと呼ばれるようになる。

#### タルムードからカバラに至るゴーレム像の要点 (ショーレムによる)

- 素材は主として粘土(処女土)。この「土」が、ゴーレムになんらかの「大地的能力」(ショーレム説)を与えるものと考えられる。
- 土像に生命力を与えるのは、ヘブライ語のアルファベット、あるいはヘブライ語で神を表す文字。これを土像に吹き込むか、その周りで唱えると、土像が動き出す。
- 製作主体はカバリスト(ユダヤ教の神秘主義カバラの研究者)で、一人の時もあるが、二人以上のときもある。
- 製作に実際的な目的はなく、カバリストとしての修行、『創造の書』の研

究終了の証となる。

- 土像の額に、ヘブライ文字アレフ・メモ・タウの三文字から成る「emeth」（אמת 真理）の語が自ずから現れる。これは神を示す「印章」。
- ゴーレム自身が第一文字アレフを消去するか、あるいは消去するようラビに要請する。アレフを消去すると残りは「meth」（死ぬの意の形容詞）となって、ゴーレムは土像に戻る。ここには、ゴーレム製作が、偶像崇拜、あるいは神に対する冒瀆だという思想がある。
- 額の文字は「JHVH Elohim emeth」（神は真理なり）の場合もある。この場合、アレフを消去すれば、「JHVH Elohim meth」（神は死んだ）という、ニーチェ的メッセージになる。
- 製作に際して「呪文」を唱えた時は、土に帰る際に、その文字の組み合わせを反転させるよう、ゴーレムは製作者に要請する。
- 製作に際して、手順を誤れば、製作者に害を及ぼす。
- ゴーレムの言語能力に関しては、聴取能力のみとするものと、発話能力もあるとするものの二つがある。

#### ロイヒリン

Johannes Reuchlin, *De arte cabbalistica*. (1517) [ラテン語]

\*J. Reuchlin, *De arte cabbalistica*. On the Art of the Kabbalah. Tr. by Martin and Sarah Goodman. Lincoln and London 1993. [ラテン語英語対訳]

中世カバラ文献から、ゴーレム像を一つ紹介している。上記に記したもののなかでは、額に「JHVH Elohim emeth」と刻み込むタイプ。

#### 4) ポーランドの伝説

- ①. Christoph Arnold, *Brief an Joh. Christoph Wagenseil*. In: J. Ch. Wagenseil, *Sota hoc est Liber Mischnicus de uxore adulterii suspecta*. Altdorf 1674.

〔ラテン語〕

\*In: Gershom Scholem, Die Vorstellung vom Golem in ihren tellurischen und magischen Beziehungen. In : Eranos Jahrbuch. Bd. 22. (1953).

In: Zur Kabbala und ihrer Symbolik. Zürich 1960 ; Frankfurt a. M. 1973;  
<sup>2</sup>1977. 〔上記の記事がドイツ語に訳されている〕

### 召使いタイプのゴーレム像の典型的なもの

- 製作者はポーランドのヘルムのラビ、エリヤ・パールシエム。パールシエムとは、「名前の主」の意で、ユダヤ教の一派ハシディズムでは、神の名を唱えて奇跡を起こす者のことだから、カバラとのつながりが意識されている。
- 粘土の土像に神名を唱えると、像は生命を得る。
- 発話能力は無いが、命じられたことは理解する。
- ゴーレムは、召使とされ、指示通りに家事労働をおこなう。
- 製作者自身が土像の額にヘブライ語で「emeth」と書き込む。
- このゴーレムは日々巨大になってゆく。巨大化したゴーレムに恐れをなしたエリヤは、ゴーレムに自らの長靴を脱がすよう命じ、かがんだ所で、額のアレフを消去する。ゴーレムは土塊に戻り、エリヤを押し潰す。

②. Jakob Grimm, (表題不詳) In: Zeitung für Einsiedler. Nr.7. vom 23. April 1808.

\*In: Scholem: Die Vorstellung vom Golem.

\*In: Paul Eckhardt, Ermittlungen über den Golem. Die Golemgeschichten des Chajim Bloch. Stuttgart 1977.

グリムの文章は、上記①Ch. Arnoldをドイツ語訳したものらしい。(ショーレム前掲書原註104参照。) 但しエリヤ・パールシエムの名は略されている。ドイツのロマン派以降の文学(本ノート、VI参照)に大きな影

響。

③. Jakob Emden, Responsa. II. 1884.

\*In: Scholem, Die Vorstellung vom Golem.

エリヤは、ゴーレムが「世界を破滅させるかもしれない」という恐れを抱いた、という記述。

ヤコブ・エムデン (1697-1776) は、ラビ・エリヤの子孫。始めラビを務めるが、後に還俗。サバタイ・ツヴィの支持者への批判者。

④. Jakob Emden, Megillath Sepher. Warschau. 1896. [自伝 ヘブライ語 Buchrolle]

\*In: Scholem, Die Vorstellung vom Golem.

ゴーレムに生命力を付与する神名は、「羊皮紙に書かれて額に貼り付けられている」と書かれている。新しい「紙片」のモチーフ。プラハのゴーレムは、その「紙片」を口中に挿入することになる。この話では、紙片をむしりとられたゴーレムが倒壊するとき、主人に危害を加えようとし、その顔面を引掻いた、とある。

「紙片」は、新しいモチーフ

主人を傷つけるのは、旧来のモチーフ

但し古い話では、押しつぶされた主人が、ここでは顔を引っかかれるだけで済んでいることに注意。

\*Bin Gorion, Der Born Judas. Bd. 5. Volkserzählungen. Leipzig 1922.

Anhang: Zur Golemsage. S. 293.にも同じ話が引用されている。

ポーランドのヘルムのラビに関する諸種の資料は、Scholem の他、Beate Rosenfeld, Sigrid Mayer や *Conditio Judaica* 誌27号 (特集 Kabbala und die Literatur der Romantik.) などに引用されている。(本ノート、IV参照)

## Ⅱ. プラハのゴーレム像の源流

この伝説の成立年代は未確定。古くは、ラビ・レーヴの伝記『メギラト・ユハシン』の刊行年（1718/27年）とラビ・ランダウがプラハに赴任した年（1755年）の間と推定されたが、ラビ・ランダウ伝説の信憑性が問題になると、下限が下がり始め、現在では、19世紀始め頃との説も出ている。そうすると次の文献①よりそれほど遠い時期ではないことになる。拙稿1999参照。

### 1) プラハ型（召使としてのゴーレム像）

#### ①. プラハのゴーレムを初めて紹介した小説

Berthold Auerbach, Spinoza, Ein poetisches Lebensgemälde. (Roman)  
Leipzig 1837.

\*B. Auerbach, Spinoza. Ein Denkerleben.. In: Schriften. Romane. 1. Band.  
Stuttgart 1871.

小説中のエピソードとして、プラハで広まっている話が紹介される。だが、下記の伝説集のものとは異同がある。護符の挿入場所が「後頭部の小脳の下」となっている。

#### ②. ユダヤの伝説集に収録される

(1) Sippurim, eine Sammlung jüdischer Volkssagen, Erzählungen, Mythen, Chroniken, Denkwürdigkeiten und Biographien berühmter Juden aller Jahrhunderte, insbesondere des Mittelalters. Hrsg. von Wolf Pascheles. Prag 1847 ; 4. Auflage. 1870.

(2) \*Sippurim. Nachdruck der Ausgabe Prag 1856-70. Hrsg. von W. Pascheles. Hildesheim und New York 1976. (Der Golem. S. 51f.)

(3) \*Das Volk des Ghetto. Hrsg. von Arthur Landsberger. 3. Aufl., München 1916.

『シippリーム』中の Sagen der Prager Juden の章から 3 編を引用。

Der Golem. S. 386ff. 底本は初版か？

(4) \*Geschichten aus dem alten Prag. Sippurim. Hrsg. von Peter Demetz.

(insel taschenbuch 1519) Frankfurt a/M und Leipzig 1994.

Der Golem. S.44ff. 底本は初版か？

『シippリーム』の第 4 版には、一文加筆された可能性がある。要確認。

### プラハのゴーレムの原初型（シippリーム型）の要点

- 製作者はプラハのラビ、レーヴ・ベン・ベツァレル。
- ラビ・レーヴは学識の高い人物だが、カバリストかどうかは不明。
- 土で土像を作成。
- ラビは神名を書き込んだ護符を土像の口中に挿入して動かす。
- ゴーレムに発話能力はないが、指示されたことを理解し実行することはできる。
- ラビはゴーレムを召使として使い、家事労働をさせる。
- 金曜日は安息日のため、ゴーレムも休ませる必要があり、そのときには、護符を取り外しておく。
- ある時護符を取り外すのを忘れたため、ゴーレムが暴れだし町を破壊する事件がおきた。安息日の準備中のラビは、ゴーレムの所へ駆けて行って、護符を挽ぎ取り、暴行をやめさせた。
- この出来事により、ラビは、ゴーレムを二度と創造しないことを決意した。
- ゴーレムの遺体については、アルトノイ・シナゴグの屋根裏に秘匿されているという伝説が有名だが、この説は1864年に発表されたある文書に発しているのので、この記述が『シippリーム』に取り入れられたのは、ほぼ第 4 版あたりからだ と推定される。それゆえ、初版からの引用あるいは複製と推定される(3)、(4)には、この記述は無いが、(2)にはある。

- シップリームの伝説は、プラハにあるアルトノイ・シナゴグの安息日開始の儀式において、詩篇の同じ箇所を二度朗誦する慣習の起源譚となっている。つまり詩篇の朗誦を始めたときにゴーレム暴動の報が入り、ラビは中断してゴーレムを取り静め、またシナゴグに戻って朗誦を続けた、というのである。

ユダヤ教の神名は JHVH (יהוה ヤーヴェ) だが、その名をみだりに唱えないよう、代わりに「שם המפרש שם シェム・ハメフォラシュ」(明言された名前) と呼ばれる。略して「שם シェム」(名前) ともいわれ、またその名を刻んだ護符も「シェム」と呼ばれる。このタイプのゴーレムを紹介したもののなかに、「Emet」のアレフを消去したタイプとの類推で、「シェム・ハメフォラシュ」の「シェム」を消去すると述べているものがあるが、これは間違い。プラハのゴーレムの原初型では、「シェム」(護符) を口中(舌の付根) に挿入したり、抜き取ったりして、ゴーレムを操縦する。まるで、フロッピー・ディスクのように。

#### 『シップリーム』中の、ゴーレム伝説以外のラビ・レーヴに関する記述

- ラビが、皇帝ルドルフの要請で、ユダヤ人の先祖達の姿を魔法で呼び出す。その際、笑うべからずという条件に皇帝が違反したため、城の大広間の天井が落下するが、ラビが「カバラの力で」くい止める。天井が落下したままの部屋は開かずの間として今も残されている。

映画「ゴーレム」(1920) では、ゴーレムが天井の落下を食い止めることになる。

- ユダヤ人街にペストが広まった原因は、二組の夫婦の不倫行為にあるとラビが究明し、夫婦に罰を与える。そして彼らが住んでいた通りは、女二人の名前に基づいてベレレス通り (Belelesgasse) と呼ばれることになった



という命名譚。

○ ある伯爵に関わる二つの話。

- 1) ラビのカバリストとしての評判を聞いた伯爵が、真偽を確かめるべくその家を訪問。小さな家なのに中に入ると宮殿のように広くて豪華。宴会の後、伯爵は召使に金の杯を一個、盗ませる。後に伯爵が耳にした噂によると、遠方の城の芸術品が一夜にして消滅、翌日は元に戻ったが、金の杯が一個無くなっていたという。
- 2) 同じ伯爵が、カバラの秘術を伝授するようラビに懇願、というより強請。困ったラビは、友人のラビと協力して、伯爵の過去の罪を明るみに出し、カバラを学ぶ資格の無いことを説得する。

以上の話は、内容を若干改変されて、ペティシュカの物語集に採録されている。(本ノート、Vの2、参照)

③. チェコの説話集に収録される

Alois Jirásek, *Staré pověsti české*. Praha. 1894.

[チェコ語 *Alte tschechische Sagen*]

\* イラーセク『チェコの伝説と歴史 (第二部)』浦井康男訳私家版 1987年

6章VI節「ユダヤ人の町」の項に、ゴーレム像に関しては Sippurim とほぼ同じタイプの説話が述べられている。ラビ・レーヴの生涯に関しては、『シップリーム』に無い記述が含まれている。例えば、ラビと皇帝ルドルフとのカレル橋の上での出会いに関する伝説。

2) ポーランド型 (迫害からユダヤ人を護る役割をもったゴーレム)

①. 「新発見の古文書」として出版

\* Nifla'ot Maharal mi-Prog im ha-Golem. Hrsg. von Judl Rosenberg. Pjotrkow 1909.

〔ヘブライ語 Wundertaten des Rabbi Löw in Prag mit dem Golem〕

編者ローゼンベルグの序文付

マハラルとはヘブライ語 Morenu Ha-Rav Löw (Unser Meister Rabbi Löw) の頭文字 MHRL に母音 a を補って読んだもので、ヘブライ語特有の略称 (愛称)。(本ノート、IV⑬152頁 註24参照)

ラビ・ランダウのエピソード (本ノート、Ⅲ、1、②参照) を紹介することで、ラビ・レーヴによるゴーレム製作の真実性の証拠としている。

「古文書」購入の経緯と売主の名を明記。

## ②. ①のイディッシュ語訳

- (1) \*Di Geshikhte Nifloes Maharal mit dem Goylem. Hrsg. von J. Rosenberg. Warschau 1925/26.

編者ローゼンベルグの序文付 (但し、「古文書」の売主の名を削除)

目次から見る限り、本文は同じ内容と思われる。

- (2) \*Seyfer Nifloes Maharal mit dem Goylem. Geshribn in Yidish. Hrsg. von J. Rosenberg. Williamsburg 1960/61.

編者ローゼンベルグの序文付 (1925/26年版と同じ)

新版に対する前書き付 (1960/61年版の編者による)

表題の一部に変更があるだけで、本文は同じ

## ③. ②からの英語訳

- (1) The Golem or the Miraculous Deeds of Rabbi Liva. Tr. by Joachim Neugroschel. In: Yenne Velt (The Other World). The Great Works of Jewish Fantasy & Occult. New York 1976.

- (2) \*Yenne Velt. New York 1978. pp. 162-225.

編者ローゼンベルグの序文 (イディッシュ語版と同文) の訳

訳者ニューグロシエルの後書付

- ④. \*Gershon Winkler, The Golem of Prague. New York 1980; 41997.

ニフラオート・マハラルの訳を含む、変奏。

⑤. ①の抜粋版

- (1) \*Micha Josef bin Gorion, Die Schaffung des Golems.  
In: Der Born Judas. Legenden, Märchen und Erzählungen. 6 Bde.  
Leipzig. Bd. 5. 1922. 巻末の註で、出典を明記。
- (2) \*M. J. b. Gorion, Der Golem. In: Born Judas. (Auswahl) Frankfurt a/M.  
1981.
- (3) \*M. J. b. Gorion, Die Schaffung des Golems. In: Alt-Prager Geschichten.  
Gesammelt von Peter Demetz. Frankfurt a/M. 1982.
- (4) \*M・ゴリオン編「ゴレム」 『ユダヤ民話集』所収 三浦勲郎訳（現  
代教養文庫）社会思想社 1980年

ニフラオート・マハラル型の要点

- 創造者は、ラビ・レーヴの他に弟子と娘婿を加えた3人。
- 彼らが土で出来た人形に火・水・空の三要素を加え、つまり地水火風の四大の結合により、ゴーレムが創造される。このゴーレムは、額の「Emet」の文字も、口中の護符も必要としない。
- このゴーレムは、ユダヤ人を迫害（儀式殺人の嫌疑）から守るために創造された。それゆえ、ゴーレムを家事労働等に使用してはならない。
- 誤って、家事等の日常の目的にゴーレムを使用すると、ゴーレムの愚直性のゆえに、大きなミスにつながる。
- 迫害からの防衛の他に、不倫等により、敬虔さを失ったユダヤ人を改心させたり、あるいは共同体から排除することも任務に入る。
- ラビとゴーレムの活躍を知った皇帝ルドルフ二世の勅令により迫害が収束する。
- 迫害の収束によりゴーレムは不要になり、解体されるが、それは、創造の

儀式を逆に実行することで成就される。

- 遺体は、ラビの仕事部屋の屋根裏に安置される。
- 本書では、プラハの地誌的記述に間違いがあることをティーベルガーが指摘している。プラハのシナゴグの名前を一切語っていない。

### 3) ウィーン型 (プラハ型とポーランド型の統合版)

#### ①. 「古文書の翻訳」として出版

\*Der Prager Golem. Von seiner „Geburt“ bis zu seinem “Tod”. Nach einer alten Handschrift bearbeitet von Chajim Bloch. Wien 1919.

#### ブロッホ型の要点

『ニフラオート・マハラル』の書名は明記しており、同書がベースになっているのは明らかだが、同書の編者 J. Rosenberg の名前は挙げていない。内容に関しては、大小さまざまな改変の手を加えている。文字通り bearbeiten されている。大きな変更のうち一つは、ゴーレムの暴動シーンを加えたこと。ただしそれなりに完結している『ニフラオート・マハラル』に、『シップリーム』の暴動シーンを接木するための繋ぎ、あるいは伏線を敷き、また原文に無い章を新たに設けている。

二つ目は、19世紀後半に発見されて公表された、ラビ・レーヴと皇帝ルドルフ2世の会見記（奇しくも『ニフラオート・マハラル』の「真の著者」とされているラビの娘婿の手になるものとされる）に合わせて、原文のいくつかの記述を削除し、会見記にあうように新章を作成。

『ニフラオート・マハラル』に欠けている、シナゴグの名前が補われている。

また原著にないエピソードが3編付加されている。

②. 再版

\*Ch. Bloch, *Der Prager Golem. Von seiner „Geburt“ bis zu seinem „Tod“*. Mit einem Geleitwort von Hans Ludwig Held. Berlin 1920.

これは、Scholem がそのゴーレム論1953で言及したものの。版型・頁付けは異なるが、内容は同一。

但し、表題から1919年版にあった„Nach einer alten Handschrift bearbeitet von Chajim Bloch“の記述が無くなっている。

③. 英訳版

Chayim Bloch, *The Golem; Legends of the Ghetto of Prague*. Tr. by Harry Schneiderman. Prefatory Note by H. L. Held. Vienna 1925.

④. その再版アメリカ版

\*Ch. Bloch, *The Golem*. New York 1972 ; <sup>2</sup>1988.

本版では、ドイツ語版に、諸種の資料から採られた説話がさらに6編付加されている。

⑤. 仏訳版 (未見)

Ch. Bloch, *Le Golem. Legendes du Ghetto de Prague*. Hg. von Francois Ritter. Strasbourg 1928.

⑥. 要約紹介

\*Die Goldene Gasse. Jüdische Sagen und Legenden. Überarbeitet von Heinz Politzer. Wien-Jerusalem 1937; Wiesbaden 1996.

本書のゴーレム説話の底本は『シップリーム』と記されているが、Golem. S. 14ff. は明らかに、Ch. Bloch のゴーレム像の短縮版である。

⑦. 紹介

Angelo Maria Ripellino, *Praga magica*. Turin 1973.

\*A. M. Ripellino, *Magisches Prag*. Aus d. Ital. von Pavel Petr. Tübingen 1982.

ゴーレム像に関しては、Ch・ブロッホによるものを中心に紹介。特に

チェコ人のゴーレム像を詳しく紹介し、それらの起源がシッフリーム版にあることを指摘してくれている点はおおいに参考になる。

『ニフラオート・マハラル』を偽書と断じているが、そうするとブロッホ版もそうなる筈だが……

#### ⑧. 詳細な紹介

\*Paul Eckhardt, Ermittlungen über den Golem. Die Golemgeschichten des Chajim Bloch. Stuttgart. 1977.

J・グリムが紹介したポーランドの説話を引用した後、Ch. Bloch のゴーレム像を詳しく紹介したもの。

#### ⑧. 抜粋と漫画化

\*Golem. Text von Ch. Bloch, G. Meyrink und E. E. Kisch. Gezeichnet von Dino Battaglia. O. O. :Altamira Literaturcomic. 1991.

バッタリヤによる漫画ゴーレム。その背景としてブロッホ、マイリンク、キッシュから抜粋。

### Ⅲ. ラビ・レーヴ伝及びラビ・レーヴ論

#### 1) 伝記

①. Mosche Meir Perles, Megillath Juchassin. 1718/1727. [ヘブライ語 Stammbuch]

(Moses Katz の Mate Moshe の付録として1745年に刊行)

子孫によって編纂されたラビ・レーヴの言行録。本書の中で、唯一の不思議な出来事は、孫の墓を作る空間をあけるために、ラビ・レーヴの墓が自ら移動したというもの。つまり、ゴーレムに関する記述は一切無い。

ラビの結婚にまつわる話と子孫の系譜が、『ニフラオート・マハラル』に採られている。

あったか。いずれにせよ、その補遺の部分が彼に大きなインスピレーションを与えたと思われる。

## 2) 伝説

- ①. Knoop, Sagen und Erzählungen aus der Provinz Posen. 1893.

\*In: J. Bergmann, Die Legenden der Juden. Berlin 1919. S. 53f.

\*In: Thieberger 1955, p.174.

ラビ・レーヴの死に関する伝説。「ポーゼン型」。「死の天使」との格闘。

- ②. A. Jirásek, (表題不詳) In: Kalendář Českožidovský. Ročenka 1913/14.

[チェコ語 Tschechisch-jüdisches Kalender. Jahrgang 1913/14]

In: J. Günzig, Die Wundermänner im Jüdischen Volk. Antwerpen 1921.

\*In: Thieberger 1955, p.174-175.

ラビ・レーヴの死に関するもう一つの伝説。「プラハ型」。高齢のラビに近づくために、「死の天使」は、孫娘または愛妻が捧げるバラの花の中に潜んだというもの。

## 3) ラビ・レーヴ論

- ①. \*Nathan Grün, Der hohe Rabbi Löw und sein Sagenkreis. Prag 1885.

1883年にプラハで行った講演に手を入れて活字にしたもの。シップリームの1883年版に基づく記述。またラビ・レーヴの伝記『メギラト・ユハシン』(1718)に関しては、明らかに1864年の新版(あるいはその再版)に基づいて記述している。刊行年には言及していないが、編者補遺の内容を述べている。

- ②. Ben Zion Bokser, Rabbi: From the World of the Cabbalah - the Philosophy of Rabbi Judah Loew of Prague. New York 1951.

\*B. Z. Bokser, The MAHARAL. The Mystical Philosophy of Rabbi Loew of

Prague. New Jersey, London 1994.

ゴーレム伝説には簡単に言及するだけで、深くは論じていない。ラビの哲学的主張の分析が中心。

- ③. \*Frederic Thieberger, *The Great Rabbi Loew of Prague: His Life and Work and the Legend of the Golem, with Extracts from His Writings and a Collection of the Old Legends*. London 1955.

ラビの伝記、哲学的（宗教的）思想、伝説を紹介すると共に、著作からの抜粋集とラビにまつわる伝説をその出生から死に関するものまで、主題にしたがって整理して引用している。ゴーレムの働きについては、シップリームと、ニフラオート・マハラルの双方から採られている。その問題性に関しては拙稿1998を参照

なお、著者はカフカより年下だが、そのヘブライ語の先生。

- ④. \*Bettina L. Knapp, *The Golem and Ecstatic Mysticism*. In: *The Prometheus Syndrome*. New York 1979.

ユング派の心理学者によるラビ・レーヴとゴーレムの分析。ブロッホ版の分析。ブロッホの底本がローゼンベルク版であることは指摘しているが、それを本物と考えている。ルドルフ2世時代の迫害も事実と考えている。

Chayim Bloch の人物紹介。註28（126-127頁）

- ⑤. \*František Kafka, *Der große Rabbi aus Prag - Jehuda Löw*. Buchloe 1988.

本書は、シップリームに基づくラビ・レーヴの叙述。ただしゴーレムにはほとんど言及されない。

- ⑥. \*Roland Goetschel, *The Maharal of Prag and the Kabbalah*. In: *Mysticism, magic, and Kabbalah in ashkenazi Judaism*. International Symposium, held in Frankfurt a. M. 1991. Ed. By Karl Erich Grözinger and Joseph Dan. (Studia Judaica; Bd.13) Berlin-New York 1995.

ラビ・レーヴの哲学的主張の分析。ゴーレム伝説には触れていないが、結



論としてはマハラールの中にカバラ的なものが生きていたこと。

- ⑦. \*Dagmar C. G. Lorenz, *Transcending the Boundaries of Space and Culture: The Figures of the Maharal and the Golem after the Shoah—Friedrich Torberg's *Golems Wiederkehr*, Leo Perutz's *Nachts unter der steinernen Brücke*, Frank Zwillinger's *Maharal*, and Nelly Sachs's *Eli. Ein Mysterienspiel vom Leiden Israels*. In: *Transforming the Center, Eroding the Margins. Essays on Ethic and Cultural Boundaries in German-Speaking Countries*. Ed. by Dagmar C. G. Lorenz and Renate S. Posthofen. Drawer, Columbia, USA 1998.*

ベースになっているのは、ブロッホ版。ショアー以降、ルドルフ2世時代、マハラール、ゴーレムが、「一つのパラダイム」になった、と指摘。

#### IV. ゴーレム論

- ①. Martin Buber, *An die Prager Freunde*. In: *Das jüdische Prag*. Prag 1917; \*Kronberg/Ts. 1978.

ブーバー論文の前提にあるゴーレム観は、シッフリーム型。

- ②. \*Hans Ludwig Held, *Das Gespenst des Golem. Eine Studie aus der hebräischen Mystik mit einem Exkurs über das Wesen des Doppelgängers*. München 1927.

ヘルトに対してショーレムは、「ヘブライ文学の知識のかわりに、事実にとぐわぬ神秘的瞑想」を持ち出すと批判。以下⑤の文献の註50および註72参照。例えば「ドッペルゲンガー」としてのゴーレム説。

- ③. \*Beate Rosenfeld, *Die Golemsage und ihre Verwertung in der deutschen Literatur*. Breslau 1934.

文学作品の素材としてのゴーレム伝説を扱う。ユダヤの伝承にも触れている

が、ニフラオート系の物語はブロッホ版に基づいて分析。オリジナルとしてのローゼンベルク版に関しては、ショーレムによる批判を紹介。

④. \*Hermann Sinsheimer, Rabbi, Golem und Kaiser. Berlin. 1935.

ゴーレム像は、ニフラオート・マハラルをベースにして、シップリーム系のシエムのモチーフを付加。しかし暴動場面は無い。皇帝ルドルフとラビ・レーヴの長い会見場面を創作。

⑤. Gershom Scholem, Die Vorstellungen vom Golem in ihren tellurischen und magischen Beziehungen. In: Eranos-Jahrbuch. 22. 1953.

\*In: Zur Kabbala und ihrer Symbolik. Zürich. 1960; Frankfurt a/M. 1973; 2. Auflage. 1977.

\*ショーレム「ゴーレムの表象」『カバラとその象徴的表現』所収 小岸昭・岡部仁訳 法政大学出版局 1985年

「ゴーレム」の語の語源から、タルムード、カバラ、ポーランドの伝承、プラハの伝承の古層（『シップリーム』系）までを考察。『ニフラオート・マハラル』系の物語には、註で言及するのみ。

⑥. Gershom Scholem, Der Golem von Prag und der Golem von Rehovot. 1965.

\*In: Judaica. 2. Frankfurt a/M. 1970.

\*ショーレム「プラハのゴーレムとレホヴォトのゴーレム」

『ユダヤ主義と西欧』所収 高尾利数訳 河出書房新社 1973年

『シップリーム』系のゴーレム観に基づいて、イスラエル製コンピューターに「ゴーレム1号」という名を与えたスピーチ。

⑦. \*Johannes Urzidil, Golem-Mystik. In: Da geht Kafka. Erweiterte Ausgabe. München 1966.

\*ウルツィディール「ゴーレムの神秘」（平田達治訳）『プラハ ヤヌスの相貌』所収 国書刊行会 1986年

このゴーレム論の底本は、F. Thieberger のラビ・レーヴ論 The Great Rabbi

Loew of Prague 1955.である。ただし、Thieberger は、『ニフラオート・マハラル』の問題性を指摘しているのに、Urzidil は、それを無視して、シップリーム系の説話とニフラオート・マハラル系の説話を合成した。

⑧. Gershom Scholem, Kabbalah. Jerusalem 1974.

\*G. Scholem, Kabbalah. (A Meridia Book) New York 1978.

Encyclopaedia Judaica, Jerusalem/New York 1972.に寄稿した論稿をまとめたもの。Golem 論では、ローゼンベルク版成立の契機として、「ヒルスナー事件」が指摘されている。モラビアの小村ポルナで起きた「儀式殺人」の嫌疑による反ユダヤ主義事件（1899年）。

⑨. \*Sigrid Mayer, Golem. Die literarische Rezeption eines Stoffes. Bern und Frankfurt 1975.

文学におけるゴーレム・モチーフに関する浩瀚な研究。ただし、ローゼンベルク版とブロッホ版の違いという視点は無く、単なる翻訳と見ている。③と同類。

⑩. \*Arnold L. Goldsmith, The Golem Remembered, 1909-1980. Variations of a Jewish Legend. Michigan 1981.

J・ローゼンベルク、Ch・ブロッホ、H・レイヴィック、G・マイリンク、A・ロスバーク等のゴーレム像を詳しく分析。要検討。

⑪. \*Arnold L. Goldsmith, Isaac Bashevis Singer and the legend of The Golem of Prague. In: Aspects of I. B. Singer. Ed. by Joseph C. Landis. Queens College Press 1986.

⑫. \*Vladimir Sadek, Stories of the Golem and their relation to the work of Rabbi Löw of Prague. Judaica Bohemiae, Vol. XIII (1987), No.2.

⑬. \*Michel Reffet, Der Golem-Mythos in Franz Werfels Werk. In: Prager deutschsprachige Literatur zur Zeit Kafkas. Schriftenreihe der Franz-Kafka-Gesellschaft. Bd. 3. Wien 1989.

- ⑭. \*Moshe Idel, Golem. Jewish Magical and Mystical Traditions on the Artificial Anthropoid. New York 1990.

ショーレム以上に詳細で大規模な、ユダヤ神秘主義におけるゴーレム伝承の研究。最重要文献。

- ⑮. \*Ctibor Rybár, Das jüdische Prag. Praha 1991.

ニフラオート・マハラール系の物語に、シェムの挿入のモチーフが加味されている。しかし前者のルドルフ2世時代のユダヤ人迫害には言及が無い。

- ⑯. \*Ira Robinson, Literary Forgery and Hasidic Judaism: The Case of Rabbi Yudel Rosenberg. In: Judaism. 40:1 (1991), Pp. 61-78.

- ⑰. \*Eveline Goodman-Thau, Golem, Adam oder Antichrist - Kabbalistische Hintergründe der Golemlegende in der jüdischen und deutschen Literatur des 19. Jahrhunderts. In: Kabbala und die Literatur der Romantik: zwischen Magie und Trope. Hrsg. von Eveline Goodman-Thau, Gert Mattenklott und Christoph Schulte. (Conditio Judaica; 27) Tübingen 1999.

- ⑱. \*Hillel J. Kieval, Persuing the Golem of Prague. Jewish Culture and the Invention of a Tradition. In: Languages of Community. The Jewish Experience in the Czech Lands. Berkeley/ Los Angeles / London 2000.

## V. その他のゴーレム物語

### 1) プラハを舞台にしたもの

- ①. Gustav Meyrink, Der Golem. (Roman) 1913/14.

\*Der Golem. Leipzig 1915.

\*マイリンク『ゴーレム』(今村孝訳) 河出書房新社 1973年

マイリンクが知っていたのは、シップリーム系のゴーレムだが……邦訳30頁以下参照。

- ②. \*Der Golem, wie er in die Welt kam. (Deutschland. Stummfilm) 1920.  
Prod. Union. Dir. P. Wegener, C. Boese. サイレント映画
- ③. Halper(n) Leivick (Leiwick), Der Golem. (jiddisch. dramatisches Gedicht)  
Warszawa 1921.  
H. Leivick, The Golem. A Dramatic Poem in Eight Scenes. Tr. by J. C. Augenlicht. In: Poet Lore 39. 1928.  
H. Leivick, The Golem. A Dramatic Poem in Eight Scenes. In: The Dybbuk and Other Great Yiddish Plays. Tr. by Joseph C. Landis. New York, London & Tronto 1966.  
\*H. Leivick, The Golem: A Dramatic Poem in Eight Scenes. In: The Great Jewish Plays. Ed. and tr. by Joseph C. Landis. New York 1972.  
[モスクワで上演 Vertonung: V. Heifetz. The Golem. (Oratorium ; 初演 ニュー・ヨーク 1941年)]  
ゴーレム製作者はマハラル (ラビ・レーヴ)、敵役の神父はタデウスという、ニフラオート・マハラル型でお馴染みの組み合わせだが、物語は独自のもの。
- ④. Egon Erwin Kisch, Dem Golem auf der Spur. 1925.  
\*E. E. Kisch, Den Golem wiederzuerwecken. In: Geschichten aus sieben Ghettos. Amsterdam 1934.  
E. E. Kisch, Den Golem wiederzuerwecken. In: Gesammelte Werke. Geschichten aus sieben Ghettos. Eintritt verboten. Nachlese. Berlin und Weimar 1973.  
\*E. E. Kisch, Den Golem wiederzuerwecken. In: Gesammelte Werke 7. Berlin und Weimar. (4. Auflage) 1992.  
\*キッシュ「ゴーレムの再生」(平田達治訳) 『プラハ ヤヌスの相貌』所収 国書刊行会 1986年

- ⑤. Tony Brook, Begegnung mit dem Golem. Eine Erzählung. In: Jüdischer Almanach auf das Jahr 5697 (1937). Beilage zur "Selbstwehr". Prag.

\*In: Die unheimliche Stadt. Ein Prag-Lesebuch. Hrsg. v. Hellmut G. Haasis. München, Zürich 1992.

- ⑥. \*Friedrich Torberg, Golems Wiederkehr. In: Golems Wiederkehr und andere Erzählungen. Frankfurt a/M. 1968.

\*トールベルク「ゴーレムの再来」(平田達治訳) 『プラハ ヤヌスの相貌』所収 国書刊行会 1986年

- ⑦. I. B. Singer, Golem. 1969. In: Vorwärts. [イディッシュ語新聞]

\*I. B. Singer, The Golem. New York 1982. [改稿英訳]

\*I. B. Singer, Der Golem. Eine Legende. Übersetzt von Gertrud Baruch. München/Wien 1998.

プラハのラビ・レイブを主人公とするが、どのタイプにも属さない。

- ⑧. \*Elie Wiesel, The Golem. The Story of a Legend. Tr. by Anne Borchardt. New York 1983.

『ニフラオート・マハラル』にイラーセクから「橋の上の出会い」の場面を付加。

- ⑨. \*Petra Kunik, Der Hohe Rabbi Löw und sein Golem. Frankfurt a/M. 1998.

ニフラオート系の枠組みに、シエムの挿入、金曜日のアルトノイシナゴークでの習慣のモチーフを付加。

## 2) プラハのゴーレム (ウィーン型) のヴァリエーション [現代プラハ型]

Eduard Petiška, Golem a jiné židovské pověsti a pohádky ze staré Prahy. Praha. 1968. [チェコ語]

E. Petiška, Der Golem. Jüdische Märchen und Legenden aus dem alten Prag. Aus dem Tschech. übersetzt von Gustav Just. Ost-Berlin 1972. ;

\*Wiesbaden 1981.

\*E. Petiška, *Der Golem. Jüdische Sagen und Märchen aus dem alten Prag. Aus dem Tschech. übersetzt von Alexandra Baumrucker.* München 1987;

\*o. O. [Prag] 1992.

\*E. Petiška, *Golem. (English.)* Tr. by Jana Svábová. o. O. [Prag] 1991.

ペティシュカのゴーレム像は、ブロッホ版をベースにしている。それに加えてラビに関するエピソードを、イラーセクやシップリームから取り込んでいる。現在のプラハでよく見られるのも、ほぼこのタイプである。

### 3) 独自のタイプ

①. \*Y. L. Peretz, *Der Goylem.* In: *Ale Verk. Sekster Bant.* Buenos Aires 1944.

[イディッシュ語]

Isaac Loeb Peretz, *The Golem.* Tr. by Irving Howe. In: *A Treasury of Yiddish Stories.* Ed. by I. Howe and E. Greenberg. New York 1951.

\*Reprinted in: *Great Jewish Short Stories.* Ed. by Saul Bellow. New York 1963; 1969.

\*ペレッツ「ゴーレム伝説」西成彦訳 沼野充義編『東欧怪談集』所収  
河出文庫 1995年

舞台はプラハ。ユダヤ人を襲う敵と闘うゴーレム。プラハ全市に死体の山。金曜日になっても仕事をやめない。異教徒が全滅すると逆にユダヤ人が安息日に困るので、マハラールはゴーレムを解体したという。原作は1893年との説も。すると、迫害と闘うゴーレム像としては、ニフラオート版より古いことになる。しかし「血の中傷」のモチーフはなく、安息日への言及がある。要検討。ペレッツ (1852-1915) は、「近代イディッシュ文学草創期の作家の一人」。ロシア領ポーランドの都市ザモシチ生まれ。

## ②. Walter Rathenau, Rabbi Eliesers Weib. (Legende)

\*In: Die Zukunft. 24. Band. Berlin 1898.

\*In: W. Rathenau, Reflexionen und Aufsätze. Berlin 1925.

女のゴーレムを作ったラビに関するイエルサレム・タルムードの伝説に基づく説話。

## ③. \*Arthur Holitscher, Der Golem. Ghettolegende in drei Aufzügen. Berlin 1908.

「昔々、中部ドイツのある町の、ゲットー」での出来事。

他に、Arthur Holitscher, Der Golem. Ein Ghetto-roman. Berlin 1916.(未見)

## ④. Raoul Hausmann, Der wahre Homunculus oder: Alchimistische Weisheit. In: Weltbilder. 49 Beschreibungen. Hrsg. v. G. F. Jonke und Leo Navratil. 1970.

\*ラウル・ハウスマン「真のホムンクルス、または錬金の叡知」田辺秀樹訳 種村季弘編『ドイツ幻想小説傑作集』所収 白水社 1985年

ラビ・レーヴである「私」が、パラケルズスからヒントを得た錬金術の作業によってゴーレムを作るという設定。

## ⑤. \*Abraham Rothberg, The Sword of the Golem. (A Novel) New York 1970.

呪文によってゴーレムを造り(ニフラオート系)、口の中にシエムを挿入し(シップリーム系)、最後に額にエメトを刻む(ポーランド系)。製作者は、プラハのラビ Low。ユダヤ人を守るのがゴーレムに与えられた任務。人間性に目覚め、ラビに反抗し、少女を愛するようになる。タデウス神父に率いられたモブがゲットーを襲撃。騒乱状態。迫害との戦いという点では、ニフラオートを継承しているように見えるが、騒乱場面の描写は独創。ペレッツに似た側面あり。

## ⑥. \*Stanislaw Lem, Golem X IV und andere Prosa. (Aus d. Pol.) Frankfurt a. M. 1979 (6. bis 10. Tausend)



\*S・レム「ゴーレム XIV 号」(長谷見／沼野／西訳『虚数』所収) 国書刊行会 1998年

⑦. \*Stanislaw Lem, Also sprach GOLEM. (Aus d. Pol.) Frankfurt a/M. 1986.

## VI. ロマン派以降のドイツ文学への余波

1812 Achim von Arnim, Isabella von Ägypten, Kaiser Karls des Fünften erste Jugendliebe. (Novelle)

\*アルニム『エジプトのイサベラ』(深田甫訳) 国書刊行会 1975 年

1814 \*Clemens Brentano, Erklärungen der sogenannten Golem in der Rabbinischen Kabbala.

1822 E. T. A. Hoffmann, Die Geheimnisse. (Novelle)

1837 \*Berthold Auerbach, Spinoza, ein poetisches Lebensgemälde. (Roman)

1841 Gustav Philippson, Der Golem. (Gedicht)

1842 Abraham Tendlau, Der Golem des Hoch-Rabbi-Löb. (Gedicht)

1843 Uffo Daniel Horn (Pseud.: Therese von M.), Der Rabbi von Prag. (Novelle)

1844 Otto von Skepsgardh, Drei Vorreden, Rosen und Golem-Tieck. (Roman)

1844 Anette von Droste-Hülshoff, Die Golems. (Gedicht)

1844 A. v. Droste-Hülshoff, Halt fest. (Gedicht)

1847 \*L. Weisl, Der Golem. (Erzählung) In: Sippurim.

1851 Theodor Storm, Ein Golem. (Gedicht)

1858 \*Friedrich Hebbel, Ein Steinwurf oder Opfer um Opfer. (Ein musikalisches Drama)

1872 Ludwig Kalisch, Die Geschichte von dem Golem. (Romanzen)

1882 Leopold Kompert, Der Golem. (Gedicht)

- 1883 Moritz Bermann, Die Legende vom Golem. (Erzählung)  
 1898 Detlev v. Liliencron, Der Golem. (Ballade)  
 1900 Rudolf Lothar, Der Golem. (Novelle)

## Ⅶ. 翻訳以外の日本語文献

(所有しているもののみ)

- 今泉文子『幻想文学空間 世紀転換期のベルリン・ウィーン・プラハ』ありな  
 書房 1985年
- 池内 紀「奇想案内-G・マイリンクほか」『私の人物博物館』所収 筑摩書  
 房 1987年
- 岩淵達治「マイリンクの『ゴーレム』と映画の『ゴーレム』」(世界幻想文学体  
 系 38A. G・マイリンク『西の窓の天使』月報) 国書刊行会 1985年
- くとう・おん文 総力特集「ゴーレム伝説と人造人間の謎」「ムー」No.153.  
 1993年8月号
- 邦高忠二「I・B・シンガーの『ゴーレム』とH・レイヴィックの『ゴーレム』  
 —そのカバラ的背景」『文学空間』Vol.III. No.1. 1991年7月
- 小岸 昭「ゴーレム像の行方」(特集「もう一つの幻想文学・民衆的想像力の  
 系譜」)『新日本文学』No.517. 1991年7月号
- 澁澤龍彦「玩具について」『夢の宇宙誌』所収 美術出版社 1964年  
 同 河出文庫 1984年
- 澁澤龍彦「昔と今のプラハ」『ヨーロッパの乳房』所収 立風書房 1973年  
 同 河出文庫 1987年
- 種村季弘「巨人ゴーレムの謎」『怪物のユートピア』所収 三一書房 1968年；  
 1991年
- 種村季弘「ゴーレムの秘密」『怪物の解剖学』所収 青土社 1974年；1987年
- 西垣 通「ゴーレムはよみがえった」『季刊へるめす』第17号 岩波書店 1988

年12月号

同 『デジタル・ナルシス』所収 岩波書店 1991年

同 『デジタル・ナルシス』(同時代ライブラリー) 岩波書店 1997年

西垣 通「ユダヤ文化と次世代コンピュータ」『季刊アステイオン』第29号

TBS ブリタニカ 1993年7月

改題「カバラと現代普遍言語機械」『ペシミスティック・サイボーグ』所

収 岩波書店 1994年

西 成彦「グスタフ・マイリンク作 ゴーレム」『世界のオカルト文学・幻想  
文学・総解説』所収 自由国民社 1982年

西丸四方「オカルト小説『ゴーレム』」『精神医学の古典を読む』所収 みすず  
書房 1989年

春山清純「迫害には穏やかな反撃を—ビン・ゴリオンの『ユダの泉』に訳出さ  
れたプラハのゴーレムの特徴について—」大阪大学「独文学報」第9  
号 1993年11月

春山清純「家事労働ロボットと迫害からの守護者と—二類型のプラハのゴーレ  
ム像を統合することは可能か」『中欧—その変奏』所収 鳥影社 1998  
年6月

春山清純「プラハのゴーレム—二類型の物語の成立と発展—(上)」

神戸薬科大学「人文研究」第23号(1998) 1999年3月

檜山哲彦「模造のことば ことばの欲望 —プラハ ゴーレム 物語」『技術  
と遊び』所収 岩波書店 1990年

前川道介「ゴーレムの生と死」(特集「人形愛」)『季刊 Panoramic Magazin is  
(イズ)』No.56. 1992年6月号

レジュメ

## プラハのゴーレム伝説の源流と形成過程

2003年11月15日

大阪大学ドイツ文学会研究発表会

春山 清純

### I. はじめに

近頃プラハに流行るもの — カフカとゴーレム

最新のゴーレム像 — E・ペティシュカ作

### II. ゴーレム観の変遷 — G・ショーレムによる

Gershom Scholem: Die Vorstellung vom Golem in ihren tellurischen und magischen Beziehungen. Eranos Jahrbuch. Bd.22 (1953).

\*In: ders.: Zur Kabbala und ihrer Symbolik. Zürich 1960; (stw 13) Frankfurt a. M. 1973.

#### 1) 旧約聖書

「Golem」の語の使用例 1回だけ（「詩篇」139.16） 語義未詳

語義—「未完成のもの」、あるいは「未完成の状態」と推定されている

#### 2) タルムード

①Adam 創造の1段階に対して Golem の語が使用される

②別系統の伝承として、『創造の書』研究により人間あるいは子牛を創造した賢者

#### 3) 12世紀頃の独仏系カバラ

上記の①と②が結合し、『創造の書』研究の集大成として Golem を造る

製作者は古代の賢者

## 4) 17世紀ポーランドの民間伝承

ヘルム (Chelm) のラビ、エリヤ・バールシエム (? - 1583)

Baalschem (Baal Schem) 「名の主」 Wunderrabi

この話が、J. Grimm によってドイツに伝えられる (1808年)

## 5) 19世紀プラハの伝承

ラビ・イエフダ・レーヴ (リーヴァ) ・ベン・ベツァレル (1505/13/20/25  
- 1609) 生年に諸説あり

\*Sippurim, eine Sammlung jüdischer Volkssagen, Erzählungen, Mythen, Chroniken, Denkwürdigkeiten und Biographien berühmter Juden aller Jahrhunderte, insbesondere des Mittelalters. Hrsg. von W. Pascheles. Prag 1847; 41870.

## ○三つのゴーレム像の対比

	中世カバラ	ポーランド	プラハ (Sippurim)
製作者	古代の賢者	エリヤ・バールシエム	ラビ・レーヴ
資格?	カバリスト	バールシエム	カバリスト (?)
人数	一人または複数	一人	一人
製作法	呪文を唱えて造る。額に Emeth が現れる (註1) מֵתֵם Emeth = Wahrheit	額に Emeth を刻む (神名を書いた羊皮紙を額に貼る)	神名を書いた紙片を口の中に挿入 護符 = Shem (註2)
目的	使用目的なし (使者に出した例がある)	召使 (室内)	召使
危険性	製作法を誤れば、製作者に被害	日々巨大化し、製作者が恐怖感 倒壊時に製作者に傷/製作者を押しつぶす	安息日休息 金曜夜にシエムを取り外す ラビの忘却で、暴動
解体法	Golem 自身がアレフを削除/製作者にそれを要請 Emeth → meth = tot	製作者がアレフを削除	製作者が護符を取り去る

	中世カバラ	ポーランド	プラハ (Sippurim)
製作者の感想	ヒュブリス	世界を破壊するかもしれない	危険な存在を二度と造るまいと決意 (遺体、シナゴークの屋根裏に保存)

(註1) JHVH Elohim Emeth の例もある。この場合アレフを消去すると JHVH Elohim (ist) tot. となる。

(註2) シェムは、シェム・ハメフォラシュ (Shem ha-meforash) の略。「明言された名前」の意。神名を直接口にするのをはばかって、その代わりに言う。(meforash = erklärt, ausgelegt, ausdrücklich)

〈資料 ①〉

### Ⅲ. 新しい「プラハのゴーレム」

#### 1) ビン・ゴリオン版への疑問 (Micha Josef Bin Gorion, 1865-1921)

„Die Schaffung des Golems“の構成

- ① „Die Schaffung des Golems“
- ② „Bruder und Schwester“
- ③ „Die Ruine“
- ④ „Der rätselhafte Bescheid“
- ⑤ „Der Tod des Golems“

不審な箇所

- 「血の中傷」による迫害との闘い
- 四大の結合による Golem 製作
- 「町の外の川」
- 「海の中の石」(ポーランドの諺)
- 「護符」への言及が、⑤章の補注的な部分にしかないこと
- ゴーレム解体年の不記載
- Altneusynagoge への言及なし
- Golem の暴動シーンなし

\*Der Born Judas. Bd. 5. (Volkserzählungen) Leipzig 1922.

## 2) 原典を求めて (Judel Rosenberg, 1859-1935)

\*Niflaoth maharal mi Prog im ha-Golem. Hg. von Judel Rosenberg. Pjotrkow  
1909

(ヘブライ語=Wundertaten des Rabbi Löw in Prag mit dem Golem.)

## 3) ニフラオート・マハラルのイディッシュ語訳と英訳

\*Di Geshikhte Nifloes maharal mit dem Goylem. Hg. von J. Rosenberg. Warshe  
1925/26.

\*Seyfer Nifloes maharal mit dem Goylem. Hg. von J. Rosenberg. Williamsburg  
1960/61.

\*The Golem or The Miraculous Deeds of Rabbi Liva. Tr. by Joachim Neugroschel. New York 1976; 1978.

## 4) 改作版の出版 (Chajim Bloch, 1881-)

\*Der Prager Golem. Von seiner „Geburt“ bis zu seinem „Tod“. Nach einer alten  
Handschrift bearbeitet von Chajim Bloch. Wien 1919; Berlin 1920.

\*The Golem. Legends of the Ghetto of Prague. By Chayim Bloch. Vienna 1925.

〈資料 ②、③〉

## ○新旧「プラハのゴーレム」諸版の対照

	シップリーム版	ニフラオート版	ブロッホ版
1. 製作者	一人	三人	三人
2. 製作法	護符の挿入	儀式 (護符なし)	儀式 (護符なし)
3. 目的	召使	迫害との闘い	迫害との闘い
4. 安息日	休息 (護符抜取り)	迫害対策に休息なし	迫害対策に休息なし
5. 安息日の措置	安息日開始前に護符を 抜き取り		安息日前に指令
6. 活躍期間		1580-1590	1580-1593
7. 暴動	あり→町を破壊	なし	あり→町を破壊
8. 原因	ラビの忘却		ラビの忘却

	シップリーム版	ニフラオート版	ブロッホ版
9. 暴動停止法	護符の抜取り		命令（遠隔操縦）
10. 解体法	護符の抜取りにより自壊	逆儀式で	自壊せず。逆儀式で
11. 解体理由		迫害終息	迫害終息
12. 遺 体	言及なし（初版） シナゴークの屋根裏 （4版）	シナゴークの屋根裏	シナゴークの屋根裏
13. 成立年代	レーヴの存命中 18世紀中頃、18世紀後 半 19世紀始め	レーヴの存命中 19世紀末	レーヴの存命中 20世紀始め

○ブロッホによる改作のねらい

- ① ゴーレムの暴動シーンの挿入 ← Sippurim に基づく

暴動の理由変更

- ② ルドルフ2世に関する記述を整理

← Hamagid 紙 (Der Verkünder) 1872年第14号に基づく

新設の章の註に転載 ← 皇帝との会見に同行したラビの女婿の手記

1592年2月（日付は史実に即している）

→ ゴーレムの解体時期、その後に移動

○ニフラオート版の問題点

- ① 地誌 プラハの地理的環境„Moldavka“（正しくは Vltava / Moldau）

- ② 史実 ラビ・レーヴの、プラハでの活動時期 1573-84、1588-92、1597-1609 (Oberrabbiner) の無視。

枢機卿の名前 Cardinal Jan Sylvester（実在せず）

ラビ・レーヴとルドルフ2世との関係、会見の回数

ルドルフ2世の時代におけるユダヤ人迫害の有無、特に「儀式殺人」

事件（ルドルフ時代にはない）



## ③ 先行する諸伝承との関係

知らなかったもの シップリーム、(ハマギド紙の記事)

知っていたもの ラビ・レーヴ伝とその補遺

Meier Perles, Megillath Juchassin. (Stammbaum) Prag 1718/27.

[結婚譚、子孫の系譜を転載]

\*編者補遺付 Warschau 1864; Warschau 1898.

[ラビ・ランダウのエピソードを序文で紹介]

## IV. さらに新しい「プラハのゴーレム」像の形成

## 1) F・ティーベルガー (1888 - 1958)

\*Frederic Thieberger, The Great Rabbi Loew of Prague. His life and work and the legend of the Golem. With Extracts from his writings and a collection of the old legends. London 1955.

諸資料を、典拠を明示して解説

ニフラオートとシップリーム等を区別

## ○ 「伝説資料編」 (A Collection of Legends)

	資料の表題	典 拠
1	• The Oldest Legend	Meir Perles' Family Chronicles, 1727.
2	• The Golem • The Magician • The Beleles Lane • The Great Rabbi Loew and the Count	Sippurim, Prague 1847.
3	• The Birth of the Maharal • How the Golem Was Created	J. Rosenberg, Warsaw 1909.
4	• How the Great Rabbi Loew met King Rudolf for the First Time	A. Irásek, 1894.

	資料の表題	典 拠
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The Last Accusation of Thaddaeus,</li> <li>• The Services of Golem</li> <li>• The Physician's Daughter</li> <li>• The Children of the Two Friends</li> <li>• Why the Scroll of the Torah Fell to the Ground,</li> <li>• The End of the Golem</li> </ul>	J. Rosenberg
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The Real Motive of the Audience</li> </ul>	Supplement to the New Warsaw edition of Perles' Chronicles, 1864.
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The Death of the Great Rabbi Loew I. The Posen Version</li> </ul>	Knoop, 1893. Retold, J. Bergmann, 1919.
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The Death of the Great Rabbi Loew II. The Prague Version</li> </ul>	A. Irásek, 1913/14. Retold, J. Gunzig, 1921.

2) J・ウルツイディール (1896-1970)

\*Johannes Urzidil, Golem-Mystik. In: ders., Da geht Kafka. Erweiterte Ausgabe. München 1966.

ティーベルガーで提示された諸資料を総合して記述。典拠に言及せず。  
ゴーレムの役割に関して、両説を結合

3) E・ペティシュカ (1924-1987)

〈資料 ④〉

Eduard Petiška, Golem a jiné židovské pověsti a pohádky ze staré Prahy. Praha 1968. [チェコ語]

\*E. Petiška, Der Golem. Jüdische Sagen und Märchen aus dem alten Prag. Aus dem Tschechischen übersetzt Alexandra Baumrucker. München 1987.

\*E. Petiška, Golem. (English) Tr. by Jana Svábová. Prag 1991.

ゴーレムの働きに関してはブロッホ版に基づきつつ、その他の点ではシップリームやイラーセクからの引用を交えて構成。A・イラーセク (1851-1930)

\*Alois Jirásek, Staré pověsti české. Praha 1894.

(チェコ語=Alte tschechische Sagen)

ゴーレムの描写は、Sippurim に基づくが、ラビ・レーヴと皇帝ルドルフ2世とのカレル橋の上での出会いの場面が付加されている。

\*A. Jirásek, Kalendář českožidovský Ročenka 1913-1914.

(チェコ語=Der tschechisch-jüdische Kalender, Jahrbuch 1913-14)

死の天使が薔薇の花に潜んで、長寿のラビを死に至らしめたという伝説。

## V. 現代のゴーレム像の混乱

### 1) 基本的配置図

一般的には           ブロッホ型  
チェコでは           ペティシユカ型  
ユダヤ人の中では   ニフラオート型

### 2) 最近の物語の混乱状況

ゴーレムの製作法—三種混合

任務                   —召使兼迫害からの守護、さらには侵入者と格闘  
言葉を喋るだけでなく、ラビに反論するゴーレム  
恋するゴーレム

### 3) ゴーレムに関する議論そのものの混乱

ゴーレム伝説に基づいてルドルフ2世時代の迫害を事実と捉える者も

ゴーレム製作は事実か虚構か

ニフラオート版とブロッホ版の同一視

ラビ・レーヴはカバリストか否か

### 4) ショアー以降の現象

プラハのゴーレムは「ショアー」状況を描いたものと解される

5) 増殖するプラハのゴーレム伝説の例

\*Abraham Rothberg, The Sword of the Golem. New York 1970.

\*David Wisniewski, Golem. New York 1996. (子供用絵本)

VI. ゴーレム暴動後のラビ・レーヴの感慨

1) シップリーム型

「この光景に驚いて、ラビは、こんな危険な召使をもう作るまいと思った。」

2) ブロッホ型

「親しい人たちにラビは語った、『もし私がゴーレムを静めるのに間に合わなかったら、ゴーレムは、プラハ全体を荒廃させ得ただろう』と。」

3) ペティシュカ型

「この事件を忘れず教訓をそこから引き出すように。我々を護るために命を与えられた極めて完全なゴーレムでさえ、容易く墮落する可能性がある。それゆえ慎重に強いものと関わりなさい、弱いものに対して好意をもって寛大に身を屈めるのとまったく同じように。というのは何事にもその時と所があるのだから。」

---

本レジュメおよび以下の資料に対する補註

①\*印は、所有している（原本／コピー）文献を示す。

②一部訂正あるいは付加をしてある。

## プラハにあるラビ・レーヴの像と墓



### ラビ・レーヴの像

〔1911年頃、チェコ人の彫刻家 Ladislav Šaloun によって建立され、新市庁舎正面右側角に設置されている〕

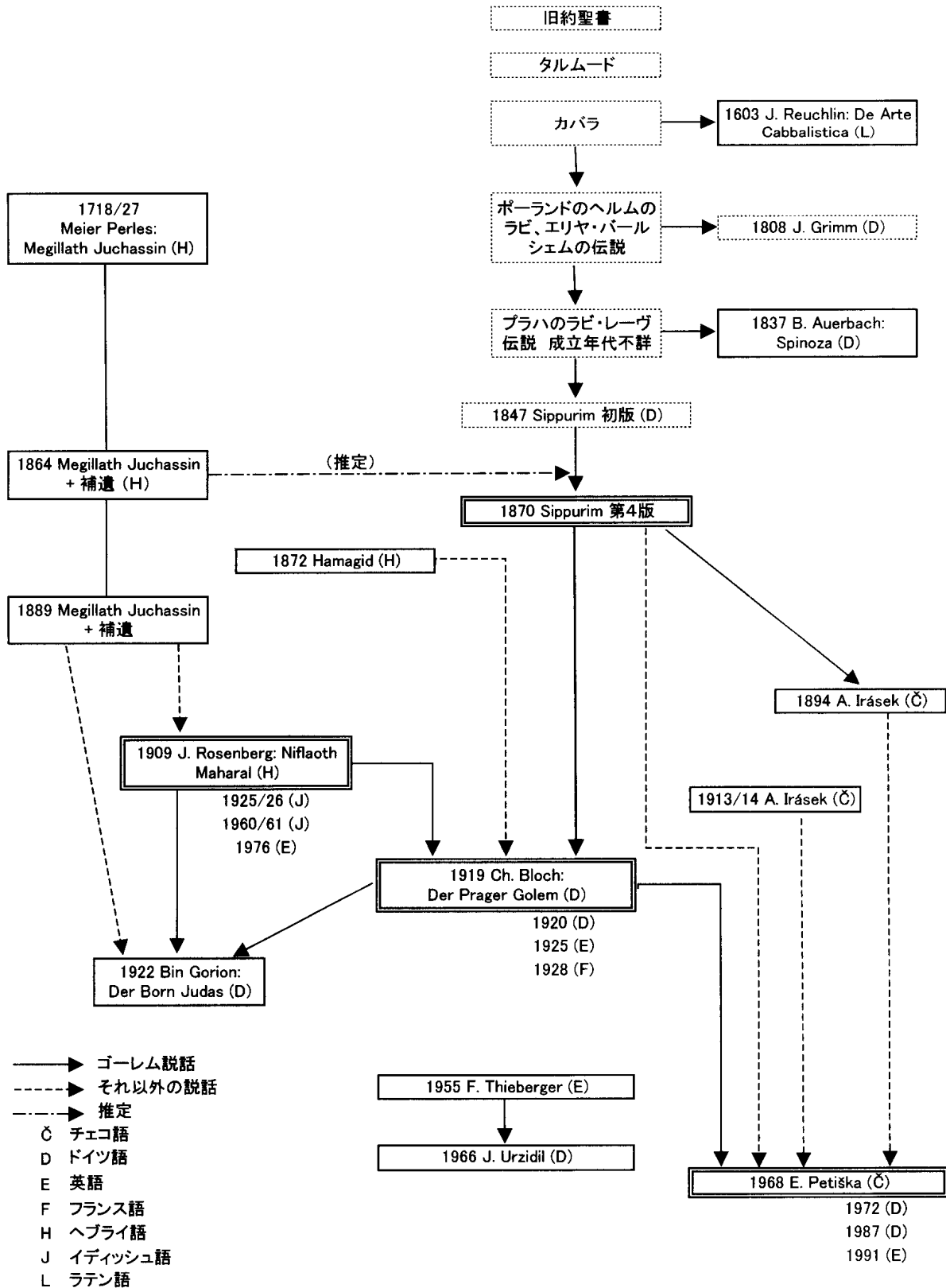


### ラビ・レーヴの墓

〔1609年没。旧市街の旧ユダヤ人墓地内にある〕

出典 Das jüdische Prag. Eine Sammelschrift mit Texten von Max Brod u. a. Kronberg/Ts. 1978. (Neuauflage des 1917 im Verlag der Jüdischen Selbstwehr erschienenen Buches. S. (X) und S. 39.)

資料① プラハのゴーレム伝説の成立と伝播



(網かけは Golem を描いた箇所)

資料② ニフラオート・マハラル系諸版の内容の異同

Niflaoth Maharal	Nifloes Maharal	The Golem	Der Prager Golem	Der Born Judas	Rabbi Loew
ハブライ語	イディッシュ語	英語	ドイツ語	ドイツ語	英語
1909年刊	1925/26年刊	1976年刊	1919年刊	1922年刊	1955年刊
編者 J. Rosenberg	編訳者 J. Rosenberg	編者 J. Rosenberg 訳者 J. Neugroschel	編者 Ch. Bloch	編訳 Bin Gorion	編訳 F. Thieberger
1. 序文 (編者) J.R.	1. 序文 (編者) 改 J.R.	1. 序文 (編者) J.R.	1. 序文 (編者) Ch.B.		
2. 売買契約書	2. 売買契約書 (白紙)			○	○
3. マハラルの誕生	3. 同 5273 (1513)	2. 同 5273 (1513)	2. Die Geburt 5273 (1513)	○	○
4. マハラルの闘い	4. 同 5332 (1572)	4. 同 5332 (1572)	★削除	○	
5. 司祭との討論提起	5. 同	5. 同	4. An den Kardinal		
6. 300人の司祭との討論	6. 同	6. 同	5. Die Disputation		
7. ルドルフ王に謁見	7. 同	7. 同	★削除		○
8. ゴーレム創造	8. 同 5340 (1580)	8. 同 5340 (1580)	6. Die Erschaffung 5340 (1580)	○	○
9. 水を運ぶ	9. 同	9. 同	7. Wasserträger		
10. 魚を獲る	10. 同	10. 同	8. Fischfänger		○
11. 使用目的	11. 同	11. 同	9. Golem bekommt Arbeit	○	○
12. 最初の奇跡	12. 同	12. 同	10. Kundschafter	○抄	○
13. 医者の娘	13. 同	13. 同	11. Die Abtrünnige 5343 (1583)		○
			12. Die vergifteten Mazzos 5344 (1584)		
14. 娘の悲しみ	14. 同	14. 同	13. Der Grafensohn		○
15. タデウスの敗北	15. 同 5345 (1585)	15. 同 5345 (1585)	14. Blutbeschuldigung 5345 (1585)		○
			15. Fische und Aepfel		○

Niflaoth Maharal	Niffoes Maharal	The Golem	Der Prager Golem	Der Born Judas	Rabbi Loew
16. 二人の子供	16. 同	16. 同	16. Beide Berf'ch	○	○
17. トーラーを落とす	17. 同 5347(1587)	17. 同 5347(1587)	17. Thorarolle 5347 (1587)	○	○
18. ゴーレム襲撃	18. 同	18. 同	20. Ein Attentat		
19. 廃屋	19. 同	19. 同	18. Die Ruine	○	
20. バルタルス公爵	20. 同	20. 同	19. Graf Barthalaums		
21. 最後の告発	21. 同 5349(1589)	21. 同 5349(1589)	21. Entlarvt 5349 (1589)		
			22. Die Audienz beim Kaiser<5342(1592)>		○
			23. Golem wird wütend		
22. ゴーレムの解体	22. 同 5350(1590)	22. 同 5350(1590)	24. Die Vernichtung 5353 (1593)	○	○
23. ゴーレムの性質19ヶ条			25. Äuserungen15ヶ条	○抄	
24. マハラルの婚約	23. 同	3. 同	3. Die verlobung		
25. 子孫と死	24. 同				
26. 目次	25. 同				
			26. Die Judenaustreibung	左の諸編は、ドイツ語版での増補	
			27. Salomonische Weisheit		
			28. Kaiser in Gefangenschaft 5353 (1593)		
			24' . Where lie the Remains of the Golem?		
			29. The Sunken Wall		
			30. The Wonderful Palace	左の諸編は、英語版での増補	
			31. The Banquet		
			32. The Kabbala		
			33. Death		



## 資料③ 目次対照表

J. Rosenberg, 1909. イディッシュ語原文 (ローマ字転写)	J. Rosenberg, 1925. イディッシュ語からの訳	J. Rosenberg, 1976. 英語からの訳	Chajim Bloch, 1919 ドイツ語
1) Farrede (J. Rozenberg)	1) 序言	1) 序言	1) Vorwort (Ch. Bloch)
2) Der SHTAR MEKHIRA fun mayn opkoy-fen dizen manaskrupt	2) この手稿購入時の売買契約		
3) Di aryoyshtammung fun MAHARAL un dos NES vos iz geshen bay zayn geburtheyt	3) マハラルの出生と誕生に際して起きた奇跡	2) ラビ・リーヴァの誕生	2) Die Geburt des Jehuda Low
4) Dos shtreyten fun MAHARAL gegen dem ALLES DAM	4) 儀式殺人の告発に対するマハラルの闘い	4) 血の中傷に対するラビ・リーヴァの闘い	
5) Der aroystrit fun MAHARAL mit a VIKUEKH gegen GALOKHIM	5) カトリックの司祭との論争をマハラルが提案	5) ラビ・リーヴァ、カトリック司祭との討論を提起	4) An den Kardinal von Prag
6) Der VIKUEKH fun MAHARAL mit 300 GALOKHIM	6) 300人の司祭との討論	6) 討論	5) Die Disputation
7) Der MAHARAL's forsthtelen zikh far dem kenig "Rudolf"	7) マハラル、ルドルフ王の御前に伺候	7) ラビ・リーヴァ、ルドルフ王の執務室に伺候	
8) Vi azoy hot der MAHARAL beshafen dem GOYLEM	8) マハラルはどのようにしてゴーレムを造ったか	8) ラビ・リーヴァはどのようにゴーレムを造ったか	6) Die Erschaffung des Golem
9) Dem GOYLEM's vaser trogen oyf PEY-SEKH	9) ゴーレム、逾越しの祭りで水を運ぶ	9) ゴーレム、逾越しの祭りで水を運ぶ	7) Der Golem als Wasserträger
10) Dem GOYLEM's fish khapen oyf RO-SHESHONE	10) ゴーレム、新年祭で魚を獲る	10) ゴーレムのヨーゼフ、新年祭で魚を獲る	8) Der Golem als Fischfänger
11) Tsu vos hot der MAHARAL benutst dem GOYLEM	11) マハラルは、ゴーレムを何に使ったか	11) ラビ・リーヴァはゴーレムを何に使ったか	9) Der Golem bekommt Arbeit
12) Der ershter MOYFES fun MAHARAL durkh dem GOYLEM	12) マハラルの、ゴーレムによる最初の奇跡	12) ラビ・リーヴァの、ゴーレムを使った最初の奇跡	10) Der Golem als Kundschafter
13) Di vinderlikhe geshukhte fun feldshers tokhter	13) 医者の子の不思議な物語	13) 医者の子の不思議な話	11) Die Abtrünnege
			12) Die vergifteten Mazzos
14) Di vinderlikhe geshukhte mit dem nomen TSARAT HABAT	14) 娘の悲しみという名で知られた不思議な物語	14) 娘の悲しみとして広く知られた不思議な話	13) Der Grafensohn
15) Di MAPOLE fun GALEKH "Tadeus" durkh a ALLES DAM	15) 儀式殺人によるタデウスの敗北	15) タデウス神父の最終的敗北をもたらし、血の中傷に関するとも不思議な話	14) Die Blutbeschuldigung

J. Rosenberg, 1909. イディッシュ語原文 (ローマ字)	J. Rosenberg, 1925. イディッシュ語からの訳	J. Rosenberg, 1976. 英語からの訳	Chajim Bloch, 1919 ドイツ語
16) Di vinderlikhe geshikhte vos a akusherke hot fertosht 2 kinder bay 2 GVIRIM, velkhe hoben zikh gerufen "Di 2 BERILEKH"	16) 一人の産婆が「二人のベルレフ」と呼ばれた主人の所で二人の子供を取り上げた不思議な物語	16) これは、産婆によって子供たちが取り替えられた二軒のベリルスの家のためにラビ・リーヴァが行った不思議で奇跡的な話である	16) Die Geschichte der beiden Berlich
17) Di geshikhte fun der aroysgefalene SEYFER TOYRE um YINKIPER	17) ヨム・キプルの時、トラーを落とした話	17) ヨム・キプルの時に地に落ちたトラーの話	17) Die hinuntergefallene Thorarolle
18) Der onfal oyf dem YOSELE GOYLEM	18) ヨセレ・ゴレムへの襲撃	18) ゴレム・ヨーゼフに対する襲撃	20) Ein Attentat
19) A MAYSE NORA fun a pustko vos iz geshtanen neben Prog	19) プラハの近郊にあった廃墟の恐ろしい話	19) プラハ近郊の廃墟に関する恐ろしい話	18) Die Ruine
20) Di vinderlikhe geshikhte fun dem duks "Barthals"	20) 「バルタルス」公爵の不思議な物語	20) バーンソロロミュ公爵の不思議な話	19) Graf Jakob Barthalaums
21) Der letster ALLES DAM in Prog fun MAHARAL's tsayten	21) マハラルの時代における最後の儀式殺人の告発	21) ラビ・リーヴァの存命中のプラハにおける最後の血の中傷	21) Entlarvt
			22) Die Audienz beim Kaiser
			23) Der Golem wird wütend
22) Vi azoy hot der MAHARAL umgebrengt dem GOYLEM	22) マハラルはどのようなにしてゴレムを死なせしめたか	22) ラビ・リーヴァはどのようなにしてゴレムのヨーゼフを死なせたか	24) Die Vernichtung des Golem
			25) Aeuserungen des Rabbi Löw über den Golem
23) Di vinderlikhe MAYSE fun MAHARAL's SHIDEKH	23) マハラルの婚約に関する不思議な話	3) ラビ・リーヴァの婚約に関する不思議な物語	3) Die Verlobung
24) Dem MAHARAL's kinder un zayn PTIRE	24) マハラルの子供たちと彼の死		26) Die Judenaustreibung
25) Der inhalt fun dem SEYFER "NIFLAOTH MAHARAL"	25) 目次		27) Salomonische Weisheit
			28) Kaiser in Gefangenschaft

## 資料④ ペティシュカのゴーレム像とその典拠

Petiška 版	Ch. Bloch	他
RABBI LÖW の章		
1) Die Geburt	2)	
2) In Prag	3)	
3) Die Kinderpest		Sippurim (Belelesgasse)
4) Jakobs Abenteuer		
5) Wie Rabbi Löw des Kaisers Karosse anhielt		Irásek 1894
6) Rabbi Löw beim Kaiser	5) の一部	
7) Gaukelbilder		Sippurim (Der Golem)
8) Der Kaiser bei Rabbi Löw		Sippurim (R. Löw und der Graf)
9) Wie Rabbi Löw ein salomonisches Urteil fällte	27)	
10) Der Traum des Kaisers		
11) Wie Rabbi Löw den Golem erschuf	6)	
12) Wie der Golem diente	7), 15), 8)	
13) Wie der Golem die Juden beschützte	9), 11)	
14) Wie Rabbi Löw eine Seele aus dem Grab auferstehen ließ	16)	
15) Die Gespensterruine	18)	
16) Wie der Golem wütete	23)	
17) Das Ende des Golems	24)	
18) Rabbi Löw und die Rose		Irásek 1913/14
他の章		
Wie der Golem neu belebt wurde		